

平成新山フィールドミュージアム構想拠点施設における観光客の交通行動調査

長崎県 正会員 ○其田智洋 長崎大学大学院 学生会員 末吉龍也
長崎大学工学部 フェロー 高橋和雄 長崎大学工学部 正会員 中村聖三

1. まえがき

長崎県は、島原地域の本格復興のため、噴火活動の沈静化に伴って平成8年度から島原半島全体を視野に入れた島原地域再生行動計画（がまだす計画）を官民一体となって策定し、島原地域の復興対策を進めてきた。また、島原半島全体の観光を通過型から周遊・滞在型へと転換するために、半島内交通ネットワークの整備と連携して新たな広域観光ルートを形成する事業を現在も継続中である。しかし、火山観光を目的とした施設の整備が順次行われてきている島原市の観光客数は、噴火中と同程度で減少している。また、島原半島全体の宿泊客延べ滞在数は、災害前の平成2年に対して6割まで落ち込んでいる。そこで、島原地域において、平成新山フィールドミュージアム構想が策定され、火山観光施設や火山遺構などの施設間のネットワーク化、情報発信、観光資源の発掘などを図っているが、各施設が点在しており、観光客が訪れる施設に偏りが見られる。また、島原市は長崎自動車道諫早インターチェンジから離れており、陸路の整備が遅れている状況である。本研究では、火山観光施設や島原城で観光客アンケート及び各施設利用車両の調査を実施し、交通手段、経路及び拠点施設の利用状況を分析する。

2. 調査概要

アンケート調査は平成16年11月6、7日の両日に島原市、深江町の雲仙岳災害記念館、道の駅『みずなし本陣ふかえ』、大野木場砂防みらい館、平成新山ネイチャーセンター、旧来の観光施設の代表である島原城及び小浜町の雲仙お山の情報館の6施設で実施した。施設の見学を終えた観光客（島原地域を除く）を対象に、面談方式によってアンケートの回答を得た。6施設の回答者数は、それぞれ91人、112人、50人、52人、78及び101人で、計484人である。また、各施設利用車両調査は、施設の駐車場出入り口で出入りする車両のナンバー及び入退場時間を測定し、車両の県別、車種別及び滞在時間を得た。分析対象車両総数は2,057台である。

3. 観光動態調査

観光客の島原への移動手段は、「自家用車」が63%と最も多い。次いで、「観光バス」や「フェリー」となっている。陸上の公共機関の利用者はきわめて少ない。島原城などは島原市街地にあるため、多様な交通手段が選択可能だが、国道251号や島原鉄道から離れている郊外の大野木場砂防みらい館、平成新山ネイチャーセンターでは「自家用車」の割合が高い。雲仙お山の情報館と比較すると、島原地域の施設は「観光バス」の割合が高い。また、移動手段の満足度についてみると、「十分満足」（38%）を「ほぼ満足」（25%）と合計すると、満足が63%となり、移動手段は満足されている。「不満」はきわめて少ない。

雲仙お山の情報館を除く5施設で島原へのアクセスで陸路を利用したと回答した観光客の経路は（図-1）、「国道57号」（41%）と最も多い。次いで、「国道251号」（26%）、「グリーンロード」（19%）となっている。「国道57号」の利用が多いのは、小浜温泉街、雲仙温泉街を観光する観光客が多

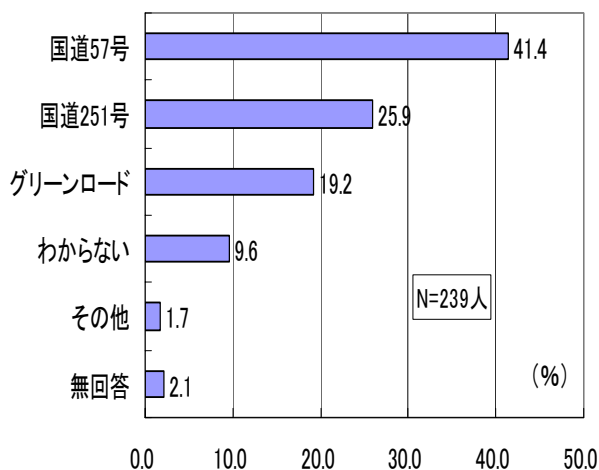


図-1 島原までの経路

いたためと思われる。県内の観光客は、「グリーンロード」（広域農道）の利用が多い。これは、県外の観光客の利用が多い「国道 251 号」のバイパスとして利用しているためである。

島原地域を観光するうえで必要な整備は、「観光案内板の整備」が 33%と最も多い。大野木場砂防みらい館、平成新山ネイチャーセンター及び島原城では、半数近くに達している。観光バスの割合が高い「その他九州圏内」及び「九州圏外」の観光客は、「観光案内板の整備」の要望が少ない。熊本県からの観光客は、フェリーの利用者が多いため、「島原半島内の幹線道路の整備」、「長崎自動車道と島原を結ぶ高速道路の整備」などの道路に対する要望は少ない。

4. 施設利用車両調査

県別では、長崎県内ナンバーの車両が 45%を占めており、次に福岡県、熊本県ナンバーの利用が多い。また、車種別では乗用車が 82%、バスが 10%となっている。バスの割合が高い大野木場砂防みらい館（17%）は、団体の利用が多いことが推察される。

施設入場時間を図-2に示す。いずれの施設（6箇所）においても、10時から15時の間に入場のピーク（時間最大入場者数）を迎えている。雲仙お山の情報館は、9時から10時の入場の割合が他の施設より多い。これは、宿泊施設に近い、出発直後の入場と思われる。ここで情報を得て見学等に出かけているものと考えられる。同様に、雲仙岳災害記念館及び島原城は、宿泊者が出発直後に訪れている割合が高いと考えられる。また、到着直後の見学と考えられる島原城、平成新山ネイチャーセンター、雲仙お山の情報館及び大野木場砂防みらい館は午後から入場する割合が高い。

施設滞在時間を図-3に示す。大野木場砂防みらい館及び平成新山ネイチャーセンターの滞在時間は、10分から60分が多い。道の駅（みずなし本陣ふかえ）、雲仙お山の情報館及び島原城の滞在時間は、30分から90分が多い。また、雲仙岳災害記念館の滞在時間は、60分から90分以上が多い。滞在時間が長い施設は、有料施設の利用や食事及び土産店の利用などが考えられる。また、近隣に他の観光施設がある場合は、その施設も利用するため滞在時間が長くなると考えられる。

5. まとめ

本アンケート調査や施設利用車両調査から得られた拠点施設の利用状況については講演時に発表する。なお、調査するにあたり財団法人雲仙岳災害記念財団の支援を得たことを付記する。

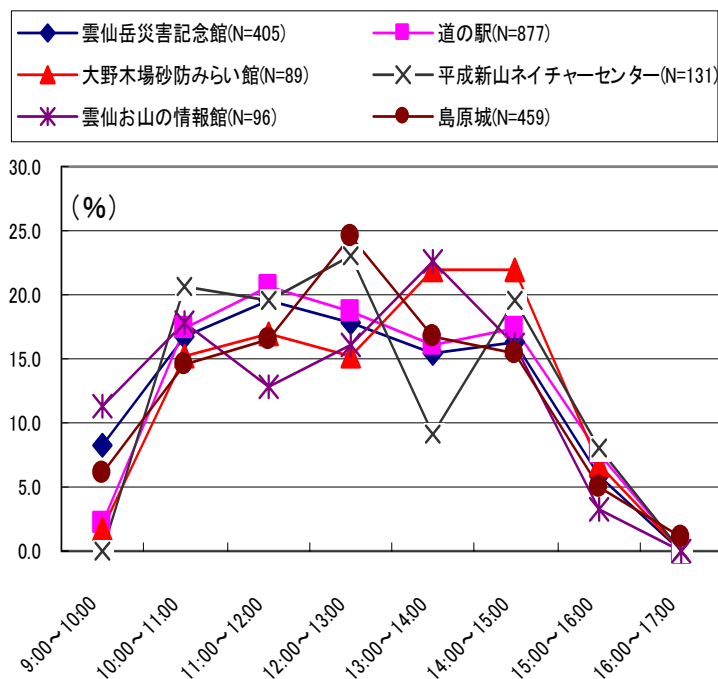


図-2 施設入場時間

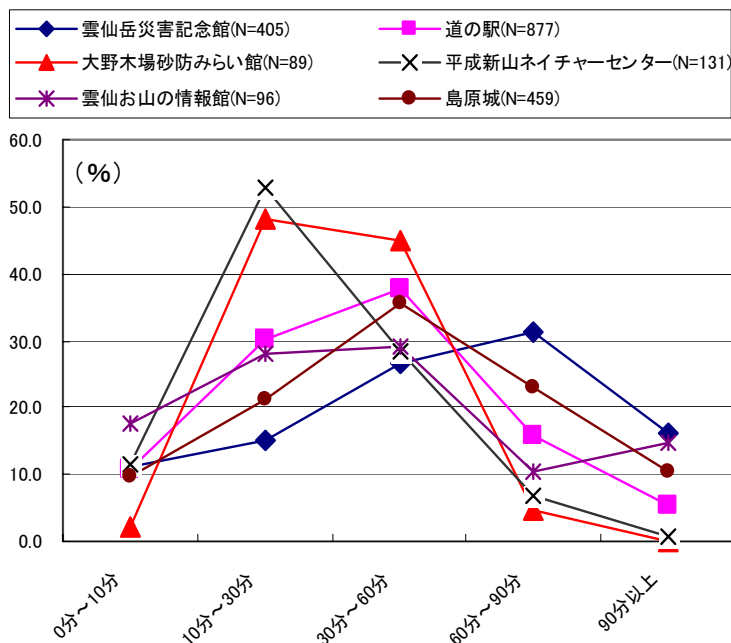


図-3 施設滞在時間